

ルカの福音書 19回

シモンの姑の癒し

ルカ 4：38～44

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①悪魔の誘惑に勝ったイエスは、聖霊の力によってガリラヤ伝道を開始した。
- ②ナザレを訪問したが、ナザレの人々はイエスを信じなかった。
- ③イエスはカペナウムに下り、そこを宣教の拠点とした。  
\*約2年半、ガリラヤを巡回したり、エルサレムに上ったりした。
- ④イエスの権威は、悪霊の追い出しと病の癒しによって証明される。

(2) ルカは、交差対句法を用いている。

- ①悪霊の追い出し（31～37節）
- ②病の癒し（38～39節）
- ③病の癒し（40節）
- ④悪霊の追い出し（41節）

2. アウトライン

- (1) シモンの姑の癒し（38～39節）
- (2) 多くの病人の癒し（40～41節）
- (3) 宣教の拡がり（42～44節）

3. 結論

- (1) シモンについて
- (2) シモンの姑について

イエスの権威について学ぶ。

I. シモンの姑の癒し（38～39節）

1. 38節

Luk 4:38 イエスは立ち上がって会堂を出て、シモンの家に入られた。シモンの姑がひどい熱で苦しんでいたため、人々は彼女のことをイエスにお願いした。

- (1) 第1の奇跡に続いて、第2の奇跡がすぐに起こる。
  - ①イエスは説教を終えて立ち上がり、会堂を出た。
  - ②会堂からシモンの家までは、徒歩で1～2分の距離である。

③ルカは、シモンが誰であるかを紹介していない。

\*読者は、すでにシモンのことを知っていたからであろう。

④シモンの家が、カペナウムでのイエスの拠点となる。

(2) 会堂での礼拝を終えると、帰宅して食卓に着くのが当時の習慣である。

①ルカ 14:1

Luk 14:1 ある安息日のこと、イエスは食事をするために、パリサイ派のある指導者の家に入られた。そのとき人々はじっとイエスを見つめていた。

(3) 奴隷がいない庶民の家では、婦人が食卓で仕える。

①ところが、シモンの姑が病気であった。

②医者ルカだけが、「ひどい熱で苦しんでいた」と記している。

③これは、医学用語である。恐らく慢性的熱病であろう。

(4) 人々の間に、イエスに対する信仰が芽生えていた。

①会堂で、イエスによる悪霊の追い出しを目撃した。

②「人々は彼女のことをイエスにお願いした」

## 2. 39節

Luk 4:39 イエスがその枕元に立って熱を叱りつけられると、熱がひいた。彼女はすぐに立ち上がって彼らをもてなし始めた。

(1) 床に敷物を置き、その上に寝るのが当時の習慣である。

①イエスは、医師が患者を診断する時の姿勢を取った。

(2) 訳語の比較

「その枕元に立って」(新改訳2017)

「枕もとに立って」(新共同訳)

「その傍らに立ちて」(文語訳)

「And he stood over her」(ASV)

「So he bent over her」(NIV)

①イエスは、慈悲深い偉大な医者である。

(3) 癒しの方法

①「熱を叱りつけられると」

②悪霊の追い出しの場合と同様に、ことばによる癒しである。

③人でなく、病に命じている箇所は、ここだけである。

\*病の擬人化である。

(4) イエスの権威が証明された。

①癒しは直ちに起こり、なんの後遺症も、疲れも残さなかった。

②「彼女はすぐに立ち上がって彼らをもてなし始めた」

③悪霊の追い出しの場合も、解放された人はなんの害も受けなかった。

## II. 多くの病人の癒し (40~41 節)

### 1. 40 節

Luk 4:40 日が沈むと、様々な病で弱っている者をかかえている人たちがみな、病人たちをみもとに連れて来た。イエスは一人ひとりに手を置いて癒やされた。

(1) ここまでで、2人の人が癒された。

①ここから、大ぜいの人の癒しが始まる。

(2) 日が沈んだ。

①安息日が終わったという意味であるが、ルカは、安息日には触れていない。

②安息日に病人を運ぶことは、律法違反である。

③安息日に癒しを行うのも、律法違反である。

④イエスは、パリサイ的律法を無視して、安息日に癒しを行うようになる。

⑤いろいろな病気の人たちが、イエスのもとに連れて来られた。

⑥悪霊の追い出しと、熱病の癒しが、町全体に口コミで伝わっていたからである。

(3) イエスが採用した癒しの方法

①イエスは、一人ひとりを大切に扱われた。

②手を置いて癒すのは、旧約聖書にはないが、新約聖書ではよくある。

③儀式的な按手ではなく、愛のある按手である。

④神の御手とは、神の力の比喩的表現である。

⑤イエスによる癒しは、肉体的、精神的、霊的な領域に及ぶ。

### 2. 41 節

Luk 4:41 また悪霊どもも、「あなたこそ神の子です」と叫びながら、多くの人から出て行った。イエスは悪霊どもを叱って、ものを言うのをお許しにならなかった。イエスがキリストであることを、彼らが知っていたからである。

(1) 交差対句法が明確に見られる。

- ①ルカは、病と悪霊憑きを区別している。
- (2) 悪霊どもの知識の進展が見られる。
  - ①「神の聖者」
  - ②「神の子」 = 「キリスト (メシア)」
  - ③知っていることと、その権威に服従することとは、別物である。
- (3) イエスは、悪霊の証言を認めない。
  - ①悪霊と関連があるかのような印象を与えたくない。
    - \* 悪魔は嘘つきである。
  - ②イエスは、人々から神の子と認められるために地上に来られた。

### III. 宣教の拡がり (42~44 節)

#### 1. 42 節

Luk 4:42 朝になって、イエスは寂しいところに出て行かれた。群衆はイエスを捜し回って、みもとまでやって来た。そして、イエスが自分たちから離れて行かないように、引き止めておこうとした。

- (1) イエスは、祈りの時間を必要とした。
  - ①前夜の興奮状態や多忙な状態から、自分を取り戻す必要があった。
  - ②次に何をすべきか、父なる神の導きを必要とした。
  - ③狭い空間に大勢の人が住んでいたため、寂しいところを見つける必要があった。
  - ④マコ 1 : 35

Mar 1:35 さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

- (2) 群衆は、イエスがなくなったので、捜し回った。
  - ①見つけるまで諦めないという意志が見える。
  - ②イエスをカペナウムに引き止めておこうとした。

#### 2. 43~44 節

Luk 4:43 しかしイエスは、彼らにこう言われた。「ほかの町々にも、神の国の福音を宣べ伝えなければなりません。わたしは、そのために遣わされたのですから。」

Luk 4:44 そしてユダヤの諸会堂で、宣教を続けられた。

- (1) イエスの使命意識
  - ①ほかの町々にも、神の国の福音を宣べ伝える義務がある。

\*十字架の福音ではなく、神の国の福音である。

②そのために、父なる神から派遣されている。

\*イエスは、父なる神から人類に遣わされた大使である。

(2) イエスは、ユダヤの諸会堂で神の国の福音を宣べ伝えた。

①狭義のユダヤは、イスラエルの地の南部である。

②広義のユダヤは、ガリラヤ地方も含むイスラエルの地全体である。

\*ここでは広義の意味が正解である。

(3) 今回学んだ箇所を、今の私たちの生活に適用してはならない。

①イエスの教えが主であり、奇跡は従である。

②イエスの教えが正しいことを証明するために、奇跡が行われた。

③使徒の働きでも、同じパターンが続く。

## 結論

### 1. シモンについて

(1) マコ1:29の情報では、4人の名前が出て来る。

Mar 1:29 一行は会堂を出るとすぐに、シモンとアンデレの家に入った。ヤコブとヨハネも一緒であった。

①ルカは、シモンの名前だけを書いている。

②ルカの福音書では、6:14でペテロという名に変わっている。

Luk 6:13 そして、夜が明けると弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び、彼らに使徒という名をお与えになった。

Luk 6:14 すなわち、ペテロという名を与えられたシモンとその兄弟アンデレ、そしてヤコブ、ヨハネ、ピリポ、バルトロマイ、

③シモンは欠点の多い人物であったが、イエスは彼の可能性を見ておられた。

(2) シモンには妻がいた。

①妻の父が亡くなったので、妻の母を自分の家に引き取ったのであろう。

②1コリ9:5

1Co 9:5 私たちには、ほかの使徒たち、主の兄弟たちや、ケファのように、信者である妻を連れて歩く権利がないのですか。

③ペテロは独身であったという教えは、聖書的ではない。

(3) シモンには、家があり、職業があり、家族がいた。

①彼は、カペナウムのユダヤ人共同体に根を張った真面目な漁師であった。

## 2. シモンの姑について

(1) ルカは、婦人の尊厳を認め、高く評価している。

- ①エリサベツ（バプテスマのヨハネの母）
- ②マリア（イエスの母）
- ③アンナ（女預言者）
- ④ペテロの姑

(2) ルカ 8 : 1～3

Luk 8:1 その後、イエスは町や村を巡って神の国を説き、福音を宣べ伝えられた。十二人もお供をした。

Luk 8:2 また、悪霊や病気を治してもらった女たち、すなわち、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラの女と呼ばれるマリア、

Luk 8:3 ヘロデの執事クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか多くの女たちも一緒であった。彼女たちは、自分の財産をもって彼らに仕えていた。

(3) ルカ 23 : 49

Luk 23:49 しかし、イエスの知人たちや、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちはみな、離れたところに立ち、これらのことを見ていた。

(4) ルカ 23 : 55～56

Luk 23:55 イエスとともにガリラヤから来ていた女たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスのからだが見られる様子を見届けた。

Luk 23:56 それから、戻って香料と香油を用意した。そして安息日には、戒めにしたがって休んだ。